

開催日 会合名 場 所 アブストラクト締切日	連絡先 TEL E-mail ホームページ	FAX	詳細記載号
10. 9.13 International Symposium on Disappearing ～ 9.17 Ice A celebration of the 50th Anniversary of Byrd Polar Research Center Byrd Center, Ohio State University, USA	thompson.4@osu.edu http://bprc.osu.edu/workshops/igs_2010/		
10. 9.17 日本陸水学会第 75 回大会 ～ 9.20 弘前大学教育学部総合教育棟	http://www.soc.nii.ac.jp/jslim/		
11. 6. 5 International Symposium on Interactions ～ 6.10 of Ice Sheets and Glaciers with the Ocean Scripps Institution of Oceanography, La Jolla, California, USA	http://www.igsoc.org/symposia/		
(*印は(社)日本雪氷学会が主催、共催、後援または協賛)			
支部・分科会等の行事予定情報をお寄せ下さい。 (社)日本雪氷学会事務局 E-mail: jimu@seppyo.org			

編 集 後 記

2010 年 1 月号をお届けします。だいぶ編集の仕事も慣れてきた、といいたところですが、この「編集後記」の依頼を忘れて、また自分で書くはめになりました。執筆者が次のひとを指名するきまりなのですが、「巻頭言」と「受賞者のことば」の執筆依頼をしたところで安心して、忘れてしまいました。読者にも飽きられるでしょうから、次は忘れずに指名します。

雪国で、冬を迎えるころの話題は、なんといっても「この冬の雪はどうなるか（降積雪の多寡）」です。日々の生活はもとより、地域の経済にも大きな影響がありますから、関心が大きいのも当然のことでしょう。

雪関連の仕事をしているのだからおわかりでしょう、という感じで尋ねられることもよくあります。どちらかというと、独自の予報を期待されているようでもあります。そんなときは、「それが自分でできれば、（雪の予報を）商売にしていますよ」と答えます。質問者はちょっと

がっかりしながらも、「むずかしいことなのですね」と納得されますので、「予報が専門の気象庁では……」と、仕入れておいた気象庁の 1 ヶ月予報、3 ヶ月予報をもとに話します。「でも、雪の長期予報はむずかしいので、少しずれることもありますよ」と付け加えておきます。雪の問題の重要さ、雪氷関係者への期待を考えると、申し訳ないような気がします。

11 月から 12 月にかけての高温傾向から一転して 12 月半ばには強い寒気が入っています。スキー場関係の方は一安心でしょうが、交通機関の混乱や除排雪時の死亡事故も起こっています。この号が届く頃には、冬の前半の様子は見えているでしょう。雪が欲しいところにはたくさん降り、いらないところには降らないで欲しい、というのが雪国の願いですが、さてこの冬はどうなるでしょうか。

(横山宏太郎)